

SHOW HEYシネマルーム

★★★★★

キリング・ミー・ソフトリー

2001年・アメリカ映画・101分

配給/アミュースピクチャーズ

2002 (平成14) 年3月10日鑑賞

<梅田ピカデリー>

Data

監督：陳凱歌

出演：ヘザー・グラハム/ジョセ

フ・ファインズ/ナターシ

ャ・マケルホーン/アルリッ

ク・トムセン

👁️👁️ みどころ

思わせぶりのタイトルと美人女優ヘザー・グラハムの予告編でのH場面だけで期待は十分。そして本編は……。期待を裏切らない超おすすめの出来。まさに一級の官能サスペンス映画。野性的な登山家で強烈にセックスアピールをするジョセフ・ファインズの演技もすばらしい。そして、中国人監督 陳凱歌のエロス描写の手腕にも脱帽。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<刺激的な予告編と中国人監督>

この映画の予告編を観た人、特に男性は、長い白のシルクの布を彼女の首に巻きつけてセックスに励む姿にびっくりし、これは是非とも本編を観てみたいと思った筈だ。

予告編は、とにかく金髪の美しいヘザー・グラハムの魅力をいっぱいに見せつけ、官能サスペンス作品としての期待を十分に持たせてくれる思わせぶりのものだ。

この映画の原作はニッキ・フレンチの「優しく殺して」というベストセラー小説だが、ストーリーは大幅に脚色しているとのこと。そして監督はなんと中国人で「さらば、わが愛/霸王別姫」や「始皇帝暗殺」などの中国映画の巨匠、陳凱歌。そして官能美をふりまく女優は、これぞ2002年のハリウッドを代表する美人女優ともいべきヘザー・グラハム。その相手役はあの「恋に落ちたシェークスピア」や「スターリングラード」で主演を演じた演技派男優ジョセフ・ファインズ。

中国の巨匠がなぜこないかにもハリウッド的で、今風の官能映画を撮ったのか？それは、中国では検閲が厳しいのでとてもこんなエッチな映画は製作できないが、やはり映画監督として一度はエロスの表現への挑戦をしてみたかったから、らしい。そう言われると、

なるほどと思うし、この作品を観ると、中国人の官能サスペンスの描き方もまんざらではないな・・・というか、しょせん同じ人間なんだ、と妙に納得してしまう。

<金髪の美女ヘザー・グラハム>

ロンドンで彼と同棲し、キャリアウーマンとして、仕事をきばきとこなすアメリカ女性アリス（ヘザー・グラハム）は、ある朝出勤途上の交差点で、信号機の押しボタンを押した手がある男性とふれ合った。この男性がアダム（ジョセフ・ファインズ）。思わず目と目を合わせた途端、アダムの強い視線を忘れられなくなってしまう。そして・・・。

こんな出会いは、場面設定や俳優の演技が中途半端だと陳腐なものになってしまうが、この映画ではすごく説得力がある。これはジョセフ・ファインズという俳優の演技力と魅力によるもので、とにかくすばらしいの一言。その後の「動物的」とも形容すべき、激しいセックスの展開も、この出会いの魅力があるからこそ不自然さがなく、思わず生ツバをのみこみながら画面にひきずりこまれていく。

ミステリアスな男アダムは、有名な登山家だった。そしてアリスは、何回かの「セックス付きデート」を経る中で、彼の魅力にひきずりこまれ、同棲していた彼を振ってしまい、アダムの元へ転がり込む。アダムはこれを喜んで受け入れ、日毎のセックスに励む。そしてある日、彼女が暴漢におそわれるのを発見し、これを救い出したアダムは、「いつも一緒にいよう」「明日結婚しよう」と激しい愛の告白をし、二人は結婚する。

<見事な官能美とサスペンスの調和>

ここまでなら、単なるラブロマンスだが、話はここからややこしくなり、サスペンスが展開される。そして「キリング・ミー・ソフトリー」というタイトルにも十分な意味があることがわかる。このラブサスペンスを紹介することは、あまりにもヤボなので、一切省略するが、とにかく、官能美とサスペンスが渾然一体となった面白いストーリーだ。

野性的だが純真でひたむきなアダムの人間性が軸となり、彼のこともっとよく知りたいと希望するアリスの女心との間で、衝突や葛藤が発生する。そしてアリスが理知的で行動的な女性であるため、次々と知られざる過去が暴かれてくる。そして・・・。あとは映画を観てのお楽しみとしていただきたい。

「美人女優大好き」のスケベ弁護士としては、この映画は超おすすめ。誰と一緒に観るか、その後の時間をどうセットするかも、熟慮した上で楽しく観ることができたら、なお最高だろう・・・。